

# とほろろ



△電線の地中化も検討されている吉原本町商店街



# 吉原

## だれもが安らぎに満ちた 暮らしが営めるまち

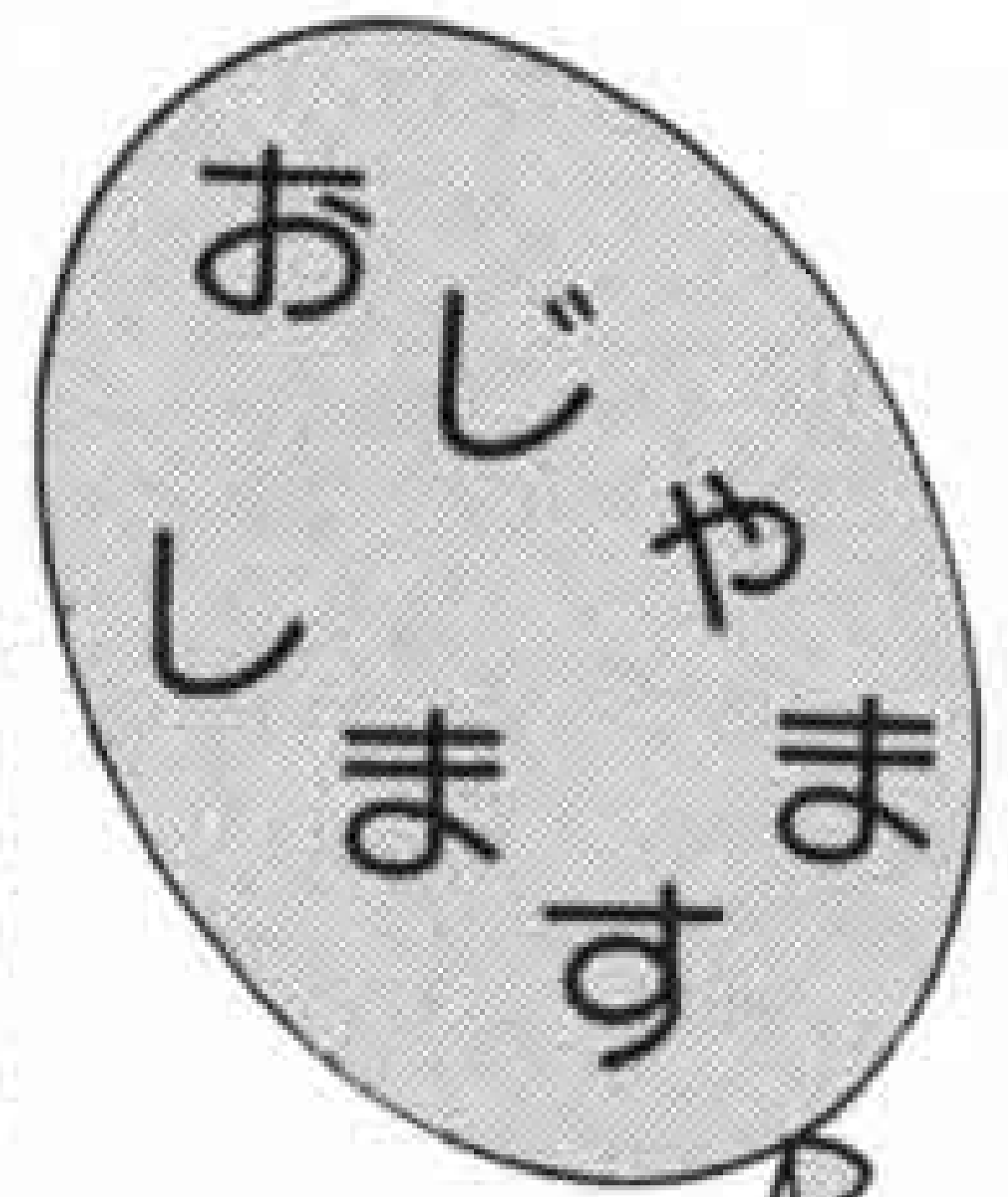
このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。6月は今泉、7月は伝法地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

吉原は東海道五十三次の宿場町として栄えてきました。延宝八年(二六〇)、大津波により依田橋西方にあった中吉原宿が全滅しました。今の吉原本町通りに吉原宿ができたのは、翌天和元年の暮れから二カ年をかけて、所替えたためです。当時の戸数は二百九十七軒でした。

吉原地区は昭和三十五年の吉原本町商店街の防災街区造成事業を初め、津田・青島・永田地区の区画整理事業により町並みが連なりました。官公庁、金融機関、事業所など都市中枢機能の集積が進み、活発な商業活動は地区発展の原動力となっています。

地区南部は工業地域で、田子の浦港開港以来、藤沢薬品、日本食品化工などが進出し、和田川西岸には日産自動車もあります。

近年は地価が上昇し、人口の他地区への流出が見られています。また、中心地としての交通問題、和田川の溢水による浸水被害の防止対策、商店街の再開発などが求められる地区でもあります。



## 祇園祭りをもっと魅力的に

吉原祭りの会の皆さん

吉原の祭りといえば「祇園祭り」。祭りが近づくと、うきうきして仕事も手につかないという面々が、祭りを通して吉原を元気にする会をつくりました。その名を「吉原祭りの会」。今回はこの会合におじやました。

年々盛大になる祇園祭り。でも、昔を知るきつすいの吉原っ子にとって、今の祭りはもう一つ物足りません。そして、今、壮年に

昔の祭りは青年が主導権を握っていました。祭りの一カ月前には太鼓の練習や仕度を始め、当日は完全燃焼。終わった数日はポーと



△代表の齊藤さん(写真前列右から4番目)と吉原祭りの会の皆さん

人が集まりました。現在は月一回の会合をもち、魅力ある祭りについて話し合っています。

ことしの祇園祭りは六月十三・十四日に行われますが、十三日の夜には、時間を決めて山車のせり合いを計画しています。

代表者となった齊藤さんは「私は祭りを通じて社会性を身に付け、吉原らしさを肌で感じ取ってきました。地元にいない大学生が、友達を連れて帰って来たくなるような祭りにできれば、吉原の活性化にもつながるはずですよ」と語ってくれました。

